



WILD BIRD SOCIETY OF JAPAN・SAITAMA

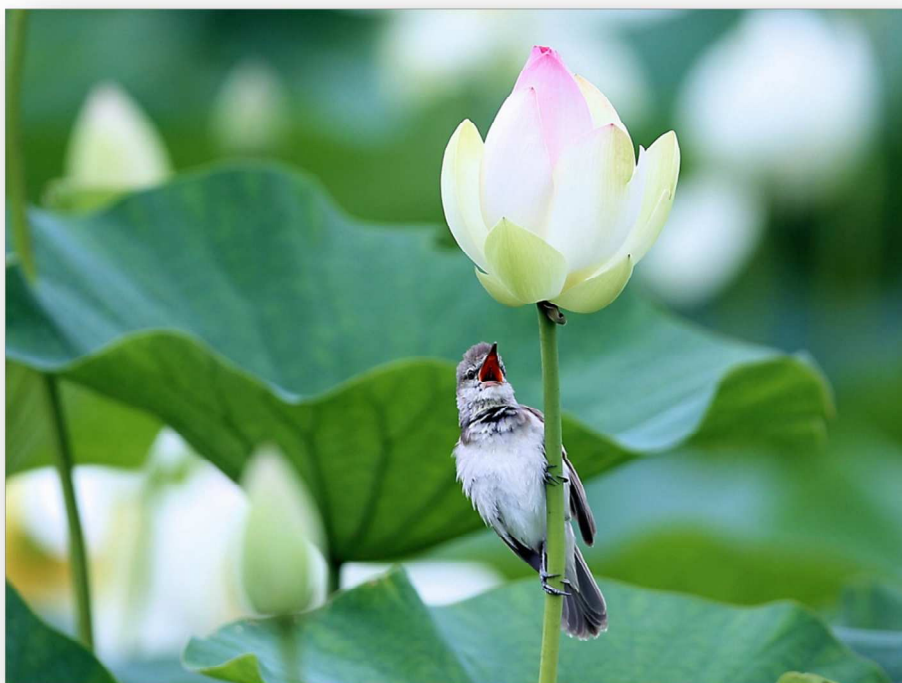
# しらこばと

## 2020.6

No.435

日本野鳥の会 埼玉

S H I R A K O B A T O



## (続) 「1 → 0」 だけは嫌だ！

山部 直喜 (三郷市)

今月号は、昨年の4月号特集の実践報告です。今夏もH神社で会う人すべてに、私の思いを伝えます。なにしろ、私のフィールド内でかつて8ヵ所あったアオバズク飛来地を「0」にはしたくないからです。

### ● 昨年の来訪者の人数

- ① 私の見守り日数は計33日。7月中旬から8月初旬の25日間は午前中を中心に毎日。
- ② 見守り時間内での来訪者(自分を除く)は延べ473名、名前を覚えてくれた人84名。84名の内、当会会員は6名。6名以外はカメラマン(以下「CM」)、またはブログの材料探しの人(数人か)。アオバズクの名前も知らない人もいた(2人)。
- ③ 見守り時間内で来訪者が10～19人は6日間、20～29人も6日間、30人以上は4日間だった。
- ④ 見守り時間外に来た人、名前の分からない人を合わせると、来訪者は延べ500人以上(会員12)、実人数は100人以上(会員6)と推定する。
- ⑤ H神社の敷地は2.5反ほどで駐車場はない。そこに延べ500人以上が訪れていた。

### ● フィールドノートからの抜粋

5月〇日：地元の人(以下「地」)「ああ、連休前から毎日のように来ている人がいるよ」。あとでわかったことだが、ブログ目的の人だった。

7月〇日：地「枝にロープをかけてゆすっていた人がいたよ」。CM01「木切れで幹を叩く

人がいた。注意しておいた」

7月〇日：氏子20人ほどで神社の清掃日。CM02、03と共に手伝う。氏子の人に望遠鏡で見てもらう、歓声。自分も嬉しい。ペットボトル2箱を差し入れ。

7月〇日：私が野鳥の会会員だと知って、CM04「CMと野鳥の会は昔から仲が悪いんだ。野鳥の会は嫌いだ」と帰って行った。

7月〇日：地「自分に挨拶する人はまず、いねえ。会釈もねえよ。する人は〇〇さんと□□さんだなあ」。「今日は神社の中に車を乗り入れた人がいた。うまくねえんだよ。ナンバーを控えておいたよ。これだよ(CM05)」。

改めて、挨拶の大切さと地元の人をよく見ていることを知る。お賽銭をあげる人、また、日頃誰が清掃をするかも知っている。

7月〇日：車が入れないように、杭10本が打たれていた。地域代表の方を訪ね、名刺を渡し、何かあったら連絡をお願いする。

7月〇日：CM06(指さしながら)あの人だよ、ここをブログに載せた人は。自分が話したことがほとんどそのまま載っていたよ。実名を伏せていてもわかるものなのだ。

7月〇日：神社に乗り入れたCM05にCM02が注意したそうだ。



見守りの際は、アオバズクの食べ落としを拾うことが楽しみだった。食事のメニューがわかる。左から右へ7月中旬から8月上旬。オオミズアオに始まってアブラゼミが多くなる。大方の甲虫類も食べている。

7月〇日：ブログを見て来たという東京からのCMが2人来訪。

7月〇日：水元公園からのCMが5人。見たブログには市町名、近くの公共施設名が載っていたからわかったとのこと。

7月〇日：神社の清掃日。CMがたくさん来て申し訳ないと氏子さんに話すと「あら、来たらお賽銭をあげてくれるんでしょ。それは助かるわ」。CMの人たちにもこのことを伝える。後日、人づてにお賽銭の額が増えたことを知る。

7月〇日：鳴き声のテープを流そうとしたCM07がCM08に注意されたとのこと。

7月〇日：CM02, 03は来訪すると必ず境内を掃いている。今日はCM09, 10も加わる。

7月〇日：父母子（小三）の親子が来訪。その姿に思わず「みなさん、見てください。実にいい光景だ」「あの子が大人になった時、自分の子どもにアオバズクが見られるような環境が残っていて欲しい」「今の私たちのせいで、この神社のアオバズクが来なくなったなど、あってはならないのです」、思わず興奮した自分がいた。居合わせた10数人の中に「それはそうだ」の声複数。

7月〇日：私「あそこには車を止めないでください。公園に回してください」。

CM11「なぜだよ。いつからそうなった？俺は去年も止めていたよ」。

私「地域の方が気にされています」。

CM11「(いろいろ不満を述べ立てる)」。よくあることなので一応言い分を聞き、自分の思いを伝えようとしたその時、

CM03「あんたねえ、あんた1人が止めるところにいるみんなが止めるんだよお。ここのルールを守れよお」と強い口調。周りにいた20数人に緊張が走る。

CM12「私もそう思います」と応援の声。

CM11、無言で車の移動に向かう。

私「CM03さん、CM12さん、うれしいです、ありがとうございます」と頭を下げる。

今日のような場合、今までは自分一人でも対応していた。しかし、今日は違った。少



アオバズク  
Ninox scutulata 27~30cm

(画 市土庫なすび)

## アオバズクからのお願い

私たち夫婦は、夏の間に、子供を産むために、そして、子育てをするために、この神社にきています。生まれた子供たちは、ここが「ふるさと」です。夏の終わりが、また、フィリピンや中国南部などへ大旅行します。もちろん家族一緒です。

大旅行に備え、私たち夫婦は、この神社の森でたくさんの大型昆虫を幼子に食べさせ、休息をとらせて、体力をつけさせなければなりません。特に今年は、生まれた子が多く、親として苦勞が絶えません。

そこで、皆さんにお願いがあります。

私たち夫婦が少しでも安心して子育てができるように、そして、子供たちが十分に休息がとれるように。皆様には森への訪問をご遠慮していただけたらとありがたいです。木の下からレンズで狙われると上に移動せざるを得ません。木の上はカラスの天下です。カラスは私たちよりも大きく、数も多いです。カラスの来ない高さのところで子育てができるよう見守っていただけたらと助かります。

安心して子育てができれば、来年もこの神社で子育てをし、ここが「ふるさと」の子を増やす計画です。どうぞ、ご協力をお願いします。

父・青島茂男、母・青島法子

しずつではあるが、私の思いが確実に伝わりつつあることを感じた記念すべき日だ。

この日以来、私の見守り時間外で無断駐車の人へ注意する人が出てきたと聞いた。

8月〇日：「アオバズクからのお願い(上参照)」を来訪者に配布する。見守り終了までに45枚を配布。

8月〇日：CM13より「アオバズクからのお願い」の受け取り拒否。また、ブログで非難めいたことを書かれていたことを知る。

8月〇日：終了日。その日の来訪者に挨拶。

私「今年は今日が最後です。来年もよろしくお願いします」。

CM14「今年は大きな問題がなくてよかったよ」。

## ● 個人的な覚書

① 顔を出し続けること。必ず賛同者が出てくる。信用される本道である。

② 挨拶を欠かさない。名前を添えるともう仲間だ。出会いが楽しくなる。

③ 人の輪を持っておくこと。そのためには日頃から何らかの地域活動をしておく。思わぬところで地元とリンクする。

④ ブログが一番厄介。地名、場所の景観を載せると際限なく人を呼び寄せる。

⑤ マナー違反のCMには、お互い一言あるようだ。言える雰囲気や醸成したい。

⑥ 「来年も来て欲しい」という気持ちは、だれもが持っている。意見が衝突した時には、「では、今どうすればよいのか」「何をしてはいけないのか」で押していけば、必ず共通点が見つかる。

## 野鳥記録委員会の最新情報

日本野鳥の会埼玉 野鳥記録委員会

### ●オオカラモズ

英名 Chinese Great-grey Shrike

学名 *Lanius sphenocercus*

分類 スズメ目モズ科モズ属

本会会員の藤原寛治さんから、さいたま市見沼区内で観察したオオカラモズの報告が寄せられました。藤原さんの話によると「2020年2月5日午前11時15分ごろ、休耕中の農地でたまたま姿を見つけ、7日に写真撮影に成功（右ほか3枚）。12日には見られなくなった。」とのことでした。

写真を見ると、初列風切基部・次列風切基部の大きな白斑、灰色の腰や長めの尾羽など、オオモズとは異なるオオカラモズの特徴が認められます。当委員会はこの野鳥をオオカラモズと同定し、当会の県内野鳥リストに347番目の野鳥として追加することにしました。

なお、このオオカラモズは、それらしき野鳥として1月下旬には既に目撃されており、藤原さんの確認報告以降は、少なくとも3月



下旬まで継続観察されました。

本種は、実は2003年1月に利根川の河川敷で観察されたことがあります(本誌2003年3月第227号参照)。しかし、その場所は埼玉県と群馬県の県境が入り組んだところで、埼玉県下における観察とは認めがたかったため、当会の県内野鳥リストの記録とはなっていませんでした。

### キジのペアリング

藤原寛治（さいたま市）

昨年5月12日の夕方、さいたま市岩槻区野孫の農道を車で走行中、道路左側で田んぼを1枚挟んだ休耕田にいるキジの♂を見つけ、すぐに車を停止。ゆっくりバックして見やすい位置にとめ、車の中から観察しました。

双眼鏡で見ると、♂から4～5m離れて♀が1羽いるのがわかりました。♂からは♀の方を気にしている気配が漂っていますが、♀は無関心を装い、何かしら啄んでいます。♂は徐々に距離を縮め、2～3mまで近づいたところでゆっくり後ろ向きになりました。ただ、♀は歩みをとめません。♂は再びゆっくり近づいて行きます。今度は、♀は歩みをやめ、草を啄み始めました。♂は2mほどまで近づき、再び後ろ向きになりました。そして

胸を張り、尾羽をゆっくり上げ、♀にアピール。その内♀が頭を上げ、チラリと♂の方を見ました(下写真上)。それが合図だったのか、♂はおもむろに♀の方に向きをかえると小走りに駆けよります。♀はひよいとしゃがみこみ、さっと交尾をしました(下写真下)。

その後、2羽はゆっくり歩きながら、市道を越え、姿が見えなくなりました。





## 野鳥情報

**久喜市高柳 十王橋付近(54391544)** ◇11月30日、12月5日、シラコバト10±(下写真)を観察(嶋田富夫)。



**加須市新利根二丁目交差点** ◇11月30日午後、高压線にミヤマガラス約500(嶋田富夫)。

**加須市下種足** ◇12月3日、池の水面にミミカイツブリ1。他にマガモ、カルガモ、オナガガモ、ヒドリガモ(鈴木紀雄)。

**さいたま市北区見沼3丁目** ◇12月1日、神明下橋付近でカルガモ、カワウ、ゴイサギ、アオサギ、ダイサギ、コサギ、カワセミ、チョウゲンボウ、スズメ、ムクドリ、ハクセキレイ、カワラヒワなど(嶋田富夫)。

**久喜市菖蒲町小林** ◇12月3日、電線に若干スズメも混じる約200羽のニュウナイスズメの群れ。電柱のノスリにモビングをかけるチョウゲンボウ♀1(鈴木紀雄)。

**さいたま市 大宮公園(53397500)** ◇12月3日、マガモ♀2、カルガモ5、オナガガモ25、キンクロハジロ17、ミコアイサ♀1、カイツブリ5、キジバト、アオバト2、カワウ1、オオバン4、オオタカ、コゲラ、ハシボソガラス、ハシブトガラス、キクイタダキ、シジュウカラ、ヒヨドリ、ウグイス2、エナガ、メジロ、ツグミ、スズメ、ハクセキレイ、ビンズイ5、シメ。12月8日、カルガモ8、オナガガモ16、キンクロハジロ13、ミコアイサ♀1、カイツブリ5、キジバト、カワウ、オオバン4、コゲラ、ハシボソガラス、シジュウカラ、メジロ、

ツグミ、ハクセキレイ、ビンズイ5、アオジ♀1(森本國夫)。

**川越市 伊佐沼** ◇12月3日午後、ヒドリガモ、カルガモ、ハシビロガモ、コガモ、ホオジロガモ、ミコアイサ、カイツブリ、カンムリカイツブリ、カワウ、アオサギ、ダイサギ、コサギ、オオバン、オオハシシギ、ハマシギ、イソシギ、ユリカモメ、モズ、ミヤマガラス、シジュウカラ、ハクセキレイ、セグロセキレイなど(嶋田富夫)。

**さいたま市見沼区上山口新田付近(53396572)**

◇12月4日、キジ、ヨシガモ7、カルガモ2、コガモ9、カイツブリ、キジバト、カワウ2、アオサギ3、ダイサギ2、コサギ、クイナ、バン4、オオバン多数、カワセミ3、コゲラ、モズ2、ハシボソガラス、ハシブトガラス、シジュウカラ4+、ヒヨドリ、ウグイス、メジロ、ムクドリ、ツグミ、スズメ、ハクセキレイ8、セグロセキレイ1、シメ1、ホオジロ1、アオジ♀1。12月14日、オカヨシガモ♂1♀1、ヨシガモ♂2♀3、カルガモ7、コガモ21、カイツブリ3、キジバト、アオサギ2、ダイサギ、コサギ2、バン7、オオバン多数、カワセミ3、チョウゲンボウ1、モズ3、ハシボソガラス、ハシブトガラス、シジュウカラ4、ヒバリ、ヒヨドリ、メジロ5、ムクドリ、ツグミ、スズメ、ハクセキレイ5、シメ、ホオジロ2、アオジ、タカ科不明種1(森本國夫)。

**上尾市平方領領家** ◇12月4日、午前10時頃、犬の散歩をしていると聞き慣れない声。季節外れのヘラオオバコの花でカワラヒワ幼鳥2が羽を休めて鳴いていた(村越百合子)。

**さいたま市見沼区膝子** ◇12月4日、草地にカシラダカ4、モズ♂1。他にミヤマガラス約100の群れ(鈴木紀雄)。

**蓮田市笹山** ◇12月4日、未だ刈り取られていない稲の中にホオアカ2とオオジュリン約10(鈴木紀雄)。

**蓮田市黒浜** ◇12月4日、畔からハヤブサ1が飛び立ち、どこからかもう1羽出現し、数回、空中で突っかかり合った後、別れて行った(鈴木紀雄)。

**加須市 加須はなさき公園** ◇12月6日、カワラヒワ、モズ、ハクセキレイ、コゲラ、シメ、ツグミ、シジュウカラ、アオサギ、ヒドリガモ、コガモ、カルガモなど（長嶋宏之）。

**蓮田市 西城沼公園周辺** ◇12月8日、5～6羽のシジュウカラが白くなったナンキンハゼの実を啄んでいた。他にアオジ1、シロハラ1、ツグミ1、ツミ1など。12月9日、数羽のヒヨドリが驚いた声で屋敷林から飛び出した。見ると、ツミと思われるタカが屋敷林へ飛び込んだ。他にツグミ11、ハシブトガラス11、ハシボソガラス7、モズ♀1、シジュウカラ5、オナガ5、シロハラ1、アオジ1など。12月13日、ムクドリが朝から賑やかだ。数えたら2つの群れで計55羽いた。エナガ5、シジュウカラ5、コゲラ2の群れが榎の枝から桜の枝に移って行った。他にツグミ10、シロハラ1、カケス1、ハクセキレイ4、カルガモ9、アオサギ1など（長嶋宏之）。

**松伏町 松伏総合公園(53397606)** ◇12月8日、オカヨシガモ1つがい（尾上愛実）。

**さいたま市岩槻区 岩槻文化公園** ◇12月10日、林縁で何やらさえずりを聞く。ルリビタキだと思い出した。移動しながらさえずっていた。元荒川水面をオオタカ若鳥が低空飛行。岸にいたヒドリガモ♂1、慌てて水面へ。他にカルガモ、オナガガモ♂1、カイツブリ、オオバン、カワセミ、スズメ、ムクドリ、ツグミ、シロハラ、アカハラ（声）、エナガ、シジュウカラ、ヤマガラ、メジロ、コゲラ、カワラヒワ、シメ、アオジ、ホオジロ、カシラダカ、カケス（声）など（鈴木紀雄）。

**さいたま市岩槻区横根** ◇12月10日、農家の屋敷林に今年もノスリがやってきた（鈴木紀雄）。

**越谷市 越谷レイクタウン** ◇12月14日、ハジロカイツブリ1、カンムリカイツブリ5。12月29日、ハジロカイツブリ1、カンムリカイツブリ9、スズガモ♀1、ミコアイサ♂1♀1（右上写真）。ミコアイサは当地で久しぶりに観察した。12月31日、オオタカ

成鳥1、ベニマシコ♂1♀1（鈴木 功）。



**深谷市 仙元山公園** ◇12月14日午前11時頃、サンショウクイ6。真冬なのにまさかと思ったが、胸が灰色で背中の色が濃い、亜種リュウキュウサンショウクイ（下写真）だった。他に、コジュケイ、ルリビタキ、ジョウビタキ、ヒガラ、アカゲラ、キクイタダキ、シロハラ、カシラダカなど（新井 巖）。



**伊奈町小室** ◇12月14日午後3時過ぎ、亜種は不明ですが1羽のサンショウクイが鳴きながら飛んだ（長谷川訓寿）。

**さいたま市西区 大宮花の丘農林公苑とその周辺(53397436)** ◇12月16日朝、トラツグミ、シロハラ、ルリビタキなど（嶋田富夫）。

**久喜市 久喜菖蒲公園** ◇12月16日、オナガガモ、マガモ、カルガモ、キンクロハジロ、ヒドリガモ、ヨシガモ、コガモ、ミコアイサ、ホシハジロなどカモ9種。他にハジロカイツブリ6、カンムリカイツブリ10、オオバン多数、カワセミ、ゴイサギなど（長嶋宏之）。

#### 表紙の写真

**スズメ目ヨシキリ科ヨシキリ属オオヨシキリ** 昨年7月5日、春日部市内。蓮沼近くのヨシ原に巣を作り、隣のハスの花柄で縄張り主張をしていました。 **榮 武男（春日部市）**



新型コロナウイルス感染防止のため  
6月中の全探鳥会の中止及び総会の延期  
代表 山部直喜

5月初頭においても、新型コロナウイルスの感染収束の兆しが見えません。やむなく、標記の決定をいたしました。

決定までには、まず4月7日に首相より緊急事態宣言の発令、さらに同日、日本野鳥の会理事長より「新型コロナウイルスに関連した探鳥会等の中止または延期のお願い（右参照）」がありました。それらを受け、4月17～19日にメール交換による役員会を開催しました。その結果、「6月中の探鳥会をすべて中止する」及び「6月28日（日）予定の総会は延期する。延期の時期は未定」の二つの議案が承認されました。このことは、直ちに当会のホームページでお知らせしました。

7月の探鳥会についても予断を許しません。そこで、「7/18-19 長野県池の平・軽井沢発地探鳥会の中止」についてのみ、5月1～3日にメール交換での役員会を開き、承認を得ています。しかし、池の平探鳥会は中止になりましたが、7月号の特集はこの地の紹介です。どうぞ、誌上探鳥会を楽しみにしてください。

また、外出自粛の時期ではありますが、当会のホームページが元気です。IT委員会の呼びかけもあって、会員の皆様が楽しむ情報を提供される会員が増えています。是非ご覧ください。

新型コロナウイルスの早期沈静化を願うとともに、探鳥会でお会いできる日を楽しみにしております。



2019.5.6 谷津干潟探鳥会

令和2年4月7日

**日本野鳥の会 連携団体各位**

（公財）日本野鳥の会理事長 遠藤孝一

**新型コロナウイルスに関連した探鳥会等の  
中止または延期のお願い（4月7日版）**

日ごろより、日本野鳥の会の活動にご支援いただきありがとうございます。

さて、皆様ご承知のように、新型コロナウイルスの感染拡大を受けた緊急事態宣言が、本日にも7都道府県に発令されます。国を挙げての感染の封じ込めが求められていること、また日々刻々と変化する状況を受け、連携団体が主催する探鳥会および室内イベント（以下、探鳥会等）を、6月末まで中止または延期していただきたく、お願い申し上げます。

記

**1 中止または延期していただきたい期間**

2020年6月末まで（7月以降は、状況を見て判断する）

**2 中止または延期していただきたい理由**

- （1）感染が全国で急速にまん延しつつあり、日々状況が変化していること
- （2）探鳥会等には、感染した場合重篤な症状になるリスクが高い高齢者、基礎疾患や障害をお持ちの方、子どもなどの参加が多数見込まれること
- （3）探鳥会等では、参加者の連絡先や住所までは把握されておらず、万が一その行事参加者の中に感染者がいた場合、すべての参加者について濃厚接触者として追跡できる十分な名簿が用意できないこと
- （4）探鳥会等の実施にあたって、担当リーダー等が心配や不安を抱いたまま開催することは、リーダー等に大きな精神的な負担を強いることになること
- （5）東京都に緊急事態宣言が発令されることにより、財団事務局の事業が縮小され、財団事務局との連絡が付きにくくなること



## 行事報告

1月4日(土) さいたま市 さぎ山記念公園

参加: 78(会員61)名 天気: 晴

キジ オカヨシガモ ヒドリガモ カルガモ ハシビロガモ オナガガモ トモエガモ コガモ カイツブリ キジバト カワウ アオサギ ダイサギ コサギ バン オオバン タシギ ユリカモメ オオタカ ノスリ カワセミ コゲラ アカゲラ チョウゲンボウ モズ カケス ハシボソガラス ハシブトガラス シジュウカラ ヒヨドリ ウグイス メジロ ムクドリ シロハラ アカハラ ツグミ ジョウビタキ スズメ ハクセキレイ セグロセキレイ カワラヒワ シメ ホオジロ カシラダカ アオジ (45種) (番外: ドバト) 新年最初の探鳥会に78名もの参加があり、観察できた野鳥も45種と充実した探鳥会となった。スタートしてすぐにアカゲラ、ジョウビタキがお出迎え、上空にはノスリ、オオタカと忙しいくらいだった。アオジやホオジロの地鳴きをたよりに見沼田んぼを歩き、見沼自然公園では7種類のカモ類をじっくり観察できた。最後には椿の花でメジロがポーズをとってくれた。 (大井智弘)

1月5日(日) 深谷市 仙元山公園

参加: 31(会員27)名 天気: 晴

コジュケイ カルガモ コガモ キジバト カワウ アオサギ ダイサギ コサギ カワセミ コゲラ アカゲラ サンショウクイ モズ カケス ハシボソガラス ハシブトガラス キクイタダキ ヤマガラ ヒガラ シジュウカラ ヒヨドリ エナガ メジロ ムクドリ シロハラ ツグミ ルリビタキ ジョウビタキ イソヒヨドリ スズメ キセキレイ ハクセキレイ ビンズイ カワラヒワ シメ カシラダカ (36種) (番外: ドバト、ガビチョウ) 唐沢川沿いを歩き始めて間もなく、カワセミを間近でじっくり見ることができ、初心者の方も大喜び。その後、なんと5年ぶりのイソヒヨドリまで出現。下見の低調さが嘘のような嬉しい誤算。仙元山に着くとコジュケイが「チョットコイ、チョットコイ」とお出迎え。神社では混

群に数羽のキクイタダキが混じり、サンショウクイまで現れて、大興奮。お目当てのルリビタキもしっかり見られて、鳥合わせ直前にビンズイ、シロハラが出現。新年早々大収穫。 (新井 蔵)

1月9日(木) 久喜市 久喜菖蒲公園

参加: 29(会員28)名 天気: 晴、強風

ヨシガモ ヒドリガモ マガモ カルガモ ハシビロガモ オナガガモ コガモ ホシハジロ キンクロハジロ ミコアイサ カイツブリ カンムリカイツブリ ハジロカイツブリ キジバト カワウ ゴイサギ アオサギ ダイサギ コサギ バン オオバン カワセミ コゲラ ハシボソガラス ハシブトガラス シジュウカラ ヒヨドリ ウグイス エナガ メジロ ムクドリ ツグミ ジョウビタキ スズメ ハクセキレイ セグロセキレイ カワラヒワ シメ (38種) 前半は北風の中、カンムリカイツブリ、ハジロカイツブリ、オオバン等を観察。風が穏やかになった後半、ヨシガモ、ミコアイサ、ホシハジロなどを次々にゲット。ヨシ原でシジュウカラ、エナガ、メジロの混群。カワセミやジョウビタキが可愛らしい。終わってみたら、カモ10種、林の小鳥も含め38種を楽しめた。 (長嶋宏之)

1月12日(日) 熊谷市 大森生

参加: 18(会員16)名 天気: 曇

キジ カルガモ カイツブリ キジバト カワウ ダイサギ カワセミ コゲラ チョウゲンボウ モズ カケス ハシボソガラス ハシブトガラス シジュウカラ ヒヨドリ ウグイス メジロ ムクドリ シロハラ ツグミ ジョウビタキ スズメ ハクセキレイ セグロセキレイ カワラヒワ シメ イカル ホオジロ カシラダカ アオジ (30種) 土手の上からモズ、ツグミ、シメの常連組を見られた。荒川の河原は去年の台風で流れが変わり、すぐ近くまで川となっていて、水鳥が遠くに見られた。上空に猛禽類も出るがやはり少ない。林ではイカルの姿を見つけたが、小鳥類は全体に少なくここ数年の傾向である。最後には池のまわりでシロハラ、アオジなど数種類をじっくりと見ることが出来た。 (茂木幸蔵)

1月12日(日) さいたま市 民家園周辺

参加: 42(会員36)名 天気: 曇



オカヨシガモ マガモ カルガモ ハシビロガモ  
 オナガガモ コガモ ホシハジロ キンクロハジ  
 ロ ミコアイサ カイツブリ カンムリカイツブ  
 リ ハジロカイツブリ キジバト カワウ アオ  
 サギ バン オオバン ユリカモメ ハイタカ  
 ノスリ カワセミ コゲラ アカゲラ チョウゲ  
 ンボウ モズ ハシボソガラス ハシブトガラス  
 シジュウカラ ヒヨドリ ウグイス エナガ メ  
 ジロ ムクドリ シロハラ ツグミ ジョウビタ  
 キ スズメ ハクセキレイ カワラヒワ ベニマ  
 シコ シメ ホオジロ カシラダカ アオジ オ  
 オジュリン (45種) (番外：ドバト) 数日前の雨  
 の予報から一転、開催できたのは幸運だった。だ  
 んだん雲が厚くなり、終わり間際には小雨がぱら  
 ついたが、無事に終わることができた。この時季  
 の第一調節池としては、ハクチョウがいないなど  
 ちょっと物足りないところもあったが、久々のア  
 カゲラの赤、ベニマシコの赤など、印象的な場面  
 がいくつもあって、楽しい探鳥会となった。

(伊藤芳晴)

1月12日(日) 千葉県 ふなばし三番瀬海浜公園

参加：25(会員24)名 天気：曇

オカヨシガモ ヒドリガモ オナガガモ スズガ  
 モ ビロードキンクロ クロガモ ホオジロガモ  
 ウミアイサ カンムリカイツブリ ハジロカイツ  
 ブリ キジバト カワウ アオサギ オオバン  
 ダイゼン シロチドリ ミヤコドリ ダイシャク  
 シギ ミユビシギ ハマシギ ユリカモメ ズグ  
 ロカモメ カモメ セグロカモメ オオセグロカ  
 モメ オニアジサシ ミサゴ モズ ハシボソガ  
 ラス ハシブトガラス ヒヨドリ ウグイス メ  
 ジロ ムクドリ ツグミ ジョウビタキ スズメ  
 ハクセキレイ オオジュリン (39種) 探鳥会開  
 始時には少し干潟が広がり、ハマシギ、ミユビシ  
 ギの群れ、ダイシャクシギが観察できた。下見時  
 にオニアジサシ、ビロードキンクロが見られたの  
 で、東側堤防に急いで向かった。無事にミヤコド  
 リに混じって羽を休めるオニアジサシを発見し、  
 参加者は大喜び。寝ていたビロードキンクロも起  
 きて泳ぎ始めた。ここでは珍しいクロガモのペア  
 も見られてラッキーだった。

(菱沼一充)

1月13日(月、祝) 滑川町 武蔵丘陵森林公園

参加：53(会員44)名 天気：晴

コジュケイ ヒドリガモ マガモ カルガモ ハ  
 シビロガモ トモエガモ コガモ ホシハジロ  
 カイツブリ キジバト カワウ アオサギ ダイ  
 サギ オオバン ノスリ カワセミ コゲラ モ  
 ズ カケス ハシブトガラス ヤマガラ シジュ  
 ウカラ ヒヨドリ ウグイス エナガ メジロ  
 シロハラ ツグミ ジョウビタキ ハクセキレイ  
 ビンズイ シメ イカル ホオジロ カシラダカ  
 ミヤマホオジロ アオジ (37種) (番外：ガビチ  
 ヲウ) 冷え込みのない、春先のような日になった。  
 出発して間もなくエナガが冬木の枝先に群れてい  
 た。ススキの原ではホオジロがさえずり、他にも  
 カシラダカ、アオジ、ミヤマホオジロが見られた。  
 梅林ではジョウビタキ、疎林地帯にはわずかなが  
 らビンズイの姿。山田大沼ではトモエガモ♂3羽  
 が見られた。例年この時季に必ず見られていたカ  
 ラ類の混群はとうとう一度も現れなかった。

(中村豊己)

1月13日(月、祝) 春日部市 内牧公園

参加：49(会員41)名 天気：晴

キジ キジバト アオサギ ダイサギ オオタカ  
 コゲラ モズ カケス ハシボソガラス ハシブ  
 トガラス ヤマガラ シジュウカラ ヒバリ ヒ  
 ヨドリ ウグイス エナガ メジロ ムクドリ  
 シロハラ ツグミ スズメ ハクセキレイ セグ  
 ロセキレイ タヒバリ カワラヒワ シメ ホオ  
 ジロ アオジ オオジュリン (29種) 水溜まり  
 ではセグロセキレイが採餌し、樹上のカワラヒワ  
 はグリーンが日に映える。コゲラは目の前で木を  
 つつき、樹冠にエナガ、その下ではメジロやシ  
 ジュウカラがせわしく動く。顔に白ブチのあるシ  
 ロハラは落葉を漁り、ツグミやシメは時折、鳴き  
 ながら林内を飛ぶ。枯れた蓮田ではアオサギ、ダ  
 イサギが付んで餌を狙う。ヨシ群落にはオオジュ  
 リンが茎をむしり、田起こし中の田んぼにハクセ  
 ケレイとタヒバリが集まる。……河川や池沼の  
 ない当地では小鳥中心の探鳥会になる。地味な鳥  
 が多い中でヤマガラが出て、彩を添えてくれた。

(石川敏男)

1月18日(土) 『しらこぼと』袋づめの会

ボランティア：5名

海老原教子、海老原美夫、大坂幸男、志村佐治、  
 三ツ矢正安



## 連絡帳

### ●今月号も 10 ページです

P7にある通り、当会の6月の探鳥会もすべて中止、6月28日(日)に予定され、会場の予約も済んでいた総会は、延期に決まりました。新たな日程は決まっています。

そのため、今月号もいつもより2ページ少ない10ページになりました。申し訳ありません。



昨年6月29日(土)さいたま市浦和区の浦和コミュニティセンター9階第15集会室で開催された総会の記念講演は、富岡辰先本部財団事務局長兼普及室長による「初心者向けバードウォッチングの成果と課題」でした。

### ●5月1日現在の会員数は

P7にある通り、財団(本部)事務局との連絡がつきにくくなっているため、後日報告します。

## 活動と予定

### ●4月の活動

4月2日(木)～3日(金)、メール交換による役員会を開催。「5月の探鳥会(予約を含む)はすべて中止とする」との議案を承認した。

4月4日(土)～12日(日)、メールによる『しらこぼと』5月号校正作業(相原修一、海老原美夫、長嶋宏之、山部直喜)。

4月17日(金)『しらこぼと』5月号をpdf化し、本部総務室に送信、全国配布を依頼した(海老原美夫)。

4月17日(金)～19日(日)、メール交換による4月2回目の役員会を開催。第1号議案「6月中の探鳥会をすべて中止する」と、第2号議案「6月28(日)予定の総会は延期する。延期の時期は未定」を承認した。

4月21日(火)『野鳥』誌と同封発送しない会員向け『しらこぼと』5月号を、郵便局から発送した(海老原美夫、山部直喜)。

### ●6月の予定

本稿執筆時の4月末の段階では、通常本欄でお知らせしている編集部会、校正作業、袋詰め会、役員会などを、事務局に集まって実施する目途が立っていません。

万一それらが開催されることになった場合は、それぞれ個別にお知らせします。

## 編集後記

これを書いているのは4月下旬。渡り鳥が通過する時季なので、早起きして散歩がてら出かけている。今年は、なるべく連続で観察して傾向をみるつもりだ。いささか寝不足気味だが、キビタキやセンダイムシクイに会えると元気が出る。空振りの日もあるが、それでこそ続けて観察する意味がある。(森本)

しらこぼと 2020年6月号(第435号) 定価200円(会員の購読料は会費に含まれます)

発行人 日本野鳥の会埼玉代表 山部直喜 (〒330-0064 さいたま市浦和区岸町4丁目26番8号 プリムローズ岸町107号) TEL 048-832-4062 FAX 048-825-0460

郵便振替 00190-3-121130 URL <http://www.wbsj-saitama.org> 事務局 office@wbsj-saitama.org

編集部への原稿 yamabezuku@wbsj-saitama.org 編集部への野鳥情報 toridayori@wbsj-saitama.org

住所変更などの連絡は gyomu@wbsj.org または TEL03-5436-2630 FAX03-5436-2635

〒141-0031 品川区西五反田3丁目9番23号 丸和ビル(公財)日本野鳥の会会員室へ

本誌掲載記事はホームページに転載される事があります。本誌またはホームページからの無断転載は、かたくお断りします。印刷 関東図書株式会社